

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【公表番号】特表2002-502464(P2002-502464A)

【公表日】平成14年1月22日(2002.1.22)

【出願番号】特願平11-501734

【国際特許分類第7版】

C 2 2 C 38/00

A 6 1 F 2/28

A 6 1 L 27/00

C 2 2 C 38/58

【F I】

C 2 2 C 38/00 3 0 2 A

A 6 1 F 2/28

A 6 1 L 27/00 L

A 6 1 L 27/00 P

C 2 2 C 38/58

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月21日(2005.4.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年4月2/日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成11年特許願第501734号

2. 補正をする者

名 称 ソシエテ インダストリエル ド メタルージ
 アヴァンセーエスアイエムエイ

3. 代理人

住 所 東京都港区虎ノ門4丁目3番20号
 神谷町MTビル19階

電話番号 03 (5425) 1800

氏 名 (9109) 弁理士 平木 祐輔



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

本願請求の範囲を別紙の通り補正する。



(別紙)

請求の範囲

1. 以下の重量%単位の組成：

Mn	15 % ～ 24 %	Ti	$\leq 0.020 \%$
Cr	15 % ～ 20 %	Al	$\leq 0.020 \%$
Mo	2.5 % ～ 4 %	S	$\leq 0.0020 \%$
N	0.6 % ～ 0.85 %	B	$\leq 0.020 \%$
V	0.1 % ～ 0.5 %	Nb + Ta	$\leq 0.5 \%$
C	$\leq 0.06 \%$	Co	$\leq 0.5 \%$
Ni	$\leq 0.25 \%$	Cu	$\leq 0.5 \%$
Si	$\leq 0.25 \%$		

を有し、Cu および Co の各元素が 0～0.5 %、Nb + Ta の合計が 0～0.5 %であり、残りが鉄および不純物から構成され、しかも該組成が、以下の条件：

$$(\%Cr) + 2.5 (\%Mo) \leq 27 \quad (I)$$

$$(\%Cr) + 3.3 (\%Mo) \geq 26 \quad (II) ; \text{及び}$$

$$\begin{aligned} \text{Log } (\%N) + 0.0605 (\%N) = & -1.3 + [125 (\%V) + 80 (\%Nb) + \\ & 52 (\%Cr) + 19 (\%Mn)] \times 10^{-3} - [4.3 (\%Cr)^2 + 0.35 (\%Mn)^2] \times 10^{-4} \\ & + 0.17 (\%Cr)^3 \times 10^{-5} \quad (III) \end{aligned}$$

を満足することを特徴とする、生理学的媒体中で耐食性がありかつ大気圧下で製造できる機械的特性の高い非磁性ステンレス鋼。

2. 前記組成が、以下の関係：

$$(\%Cr) + 3.3 (\%Mo) + 30 (\%N) - (\%Mn) \geq 26 \quad (IV)$$

を満足することを特徴とする、請求項 1 に記載の鋼。

3. 1000℃以上の温度で溶体化処理して過硬化させた後、引張降伏強度 $R_p 0.2$ が 450 N/mm² 以上であることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の鋼。4. 1000℃以上の温度で溶体化処理して過硬化させた金属を周囲温度で加工硬化させた後、引張降伏強度 $R_p 0.2$ が 1000 N/mm² 以上であり、破断点伸び A5d が 25 %を超えることを特徴とする、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の鋼。

5. 内部または外部適用のために人体に接触させることが意図された物品を製造するための、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の鋼の使用。